

テーマごとに作成してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	
施設名（園名等）	にじいろ保育園三鷹下連雀

1. 活動のテーマ

<テーマ>

かがく ～身の回りの不思議～

<テーマの設定理由>

子どもたちは身の回りで起こる現象や自然に興味を持っている。科学タイムを通して、園の周りにある公園や自然が多い場所を活かして
自然や事象への興味・関心をさらに高め、保育者と一緒に体験し探求心を深めていくため。

2. 活動スケジュール

2025年4月～2026年3月 年間スケジュール								
実施予定日	テーマ	対象クラス・対象人数						活動予定内容
		0歳児 クラス (人)	1歳児 クラス (人)	2歳児 クラス (人)	3歳児 クラス (人)	4歳児 クラス (人)	5歳児 クラス (人)	
		※「とうきょう すくわくプログラム」の対象クラスについて、 対象人数を記載してください。						※活動予定内容を記載してください。
2025年9月 頃	かがく タイム						12人	鏡を使って物の見え方の不思議を知らう（鏡）
2025年10月 頃	かがく タイム						12人	スライムの感触などで楽しく遊ぶ。（スライム）
2025年11月 頃	かがく タイム						12人	ロケットがなぜ飛ぶのか、実際に作って遊び、構造を知る。（ロケット）
2025年12月 頃	かがく タイム						12人	子どもたちで凧を作り、実際に遊んでみて楽しさを知る。（凧）
2025年1月 頃	かがく タイム						12人	パズルや漫画など世の中には錯視の物がたくさんあることへの興味、関心を 引き出せるように楽しむ。（錯視）
2025年2月 頃	かがく タイム						12人	静電気の不思議を知り、実際に静電気を体験し面白さや不思議さに気付く。 （静電気）
2025年3月 頃	わくわく コース						12人	赤いフィルターなどを通して見える世界の違いを経験していく。（補色・立体 視）
2025年9月 頃	わくわく コース				13人	11人		は明、子どもたちが、絵本や図鑑の文字に興味があり、子どもたちの探求心を深めるために「もじ」への興味・関 心が高まっているので、もじの楽しさを知りながら探求心を深めていく。
2025年10月 頃	わくわく コース				13人	11人		子どもたちの中で言葉について、興味関心が出てきていて、今出てきている子 どもたちの言葉の不思議への探求心をさらに保育者とともに深めていく。
2025年11月 頃	わくわく コース				13人	11人		日々、子どもたちが時計の数字などに興味を持っているため、数の不思議さら に子どもたちの考えを保育者と一緒に深めていく。
2025年12月 頃	わくわく コース				13人	11人		子どもたちが抱く文字への疑問や不思議さを保育者と共に探求し、面白さを子 ども自身で見つけていく。

3. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

- ・ 活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・ 活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

まず、活動を始まる前に子どもたちの目の前で実験を行い、なぜこのような現象が起きるのかを子どもたちに考えさせて、講師は子どもたちから出てくる「なんで動くの?」「紙を横にしたら倒れないよ」などの質問や気づきにすべて肯定しながら答えている姿があった。

素材などは、講師の方が用意してくれたもので、実験などを行いやすい環境を作った。

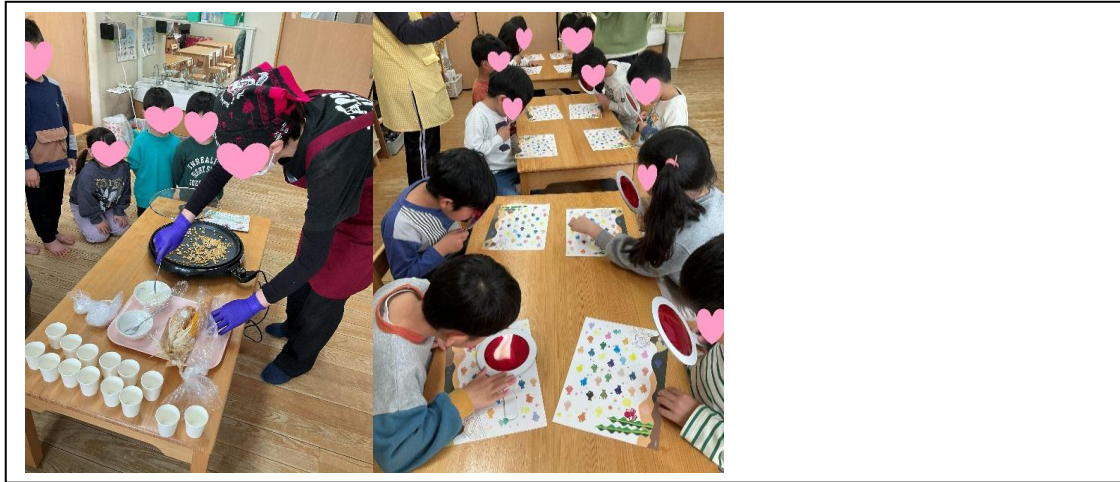
風作りでは、硬い紙や柔らかい紙などを用意して活動を行ったり、静電気の探究活動では静電気を起こしやすい布やプラスチックの素材などを使用して、子ども達が活動を行う前に講師が子ども達の目の前で、「今から魔法をかけます。」と言って静電気を溜めた道具を使って、プラスチックの車輪を動かす実験を見せた後、「なんで動いたのかな?」と質問し、子どもたちは「風で動かした!」や「魔法だ」などと思いついたことを講師に伝え、講師の方も実際に子ども達から出た案を目の前で実践して、「風じゃないみたいだね、他に何か気づいたことある?なんで動いたのかな?」など言葉がけを行っていた。

保育者も子どもたちの発見に対して「いい考えだね。なるほど、そうやってできるかもね。」など、肯定する言葉を伝えていた。子どもたちは保育者からの言葉に嬉しそうに「わかった、〇〇するんだよ。」とひらめいた表情で保育者に伝えていた。

実験した後、子どもたちは用意した紙コップやストローで、静電気で動くおもちゃを作成し完成させ子どもたちは静電気を起こし、動かして実験を行った。

実際に見て、実験するだけではなく、実験して遊べるものを作成しより子どもたちの探求心を深める活動だった。

保育者も一緒に玩具を作り、子どもたちにあえて「どこにセロハンテープを貼るの?」と聞き、子どもたちが「こっちに貼ったらもっと強くなるかな?」と答えるなど、一緒に考えながら手作り玩具を作って実際に使って探求をした。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもと活動をする際は、どんなに小さな事でも子ども達の声拾い、一緒に考えて、言葉も必要する言葉がけをしていくことが大切だと感じた。

活動する際、保育者自身も一緒に楽しむことで、より子ども達は楽しみより知りたい、探究したいという気持ちに繋がっていくのだと知ることができた。

実験内容も、子ども達の身の回りに起こりうる現象ばかりだった為、子ども達にも分かりやすい内容だったと感じた。